

平成 25 年度の展観事業の実施報告

1 美術館の展観事業

平成 25 年度中の金谷美術館の展示事業は、2 の通りである。展観事業の収支は非常に厳しい状況であるが、地域振興及び豊かな街づくりのため、当公益財団法人は継続して展観事業の充実に努力し推進して行くことにしている。

2 展示事業

●金谷アートクロッシング 2013.4.13～6.30

彫刻家である清水一直氏とその周辺の彫刻家 23 人による金谷美術館初の彫刻展。また、過去に 2 度金谷美術館で企画展を開催している久住三郎氏とも親交があり、久住氏の作品も展示した。合計 25 作家が集まり、その関係の方達へ広報してもらいなどいつもより宣伝は広くできたが、集客は 1052 人であった。終了後、彫刻の寄贈が 5 作家からあり収蔵した。

●&OCEAN 2013.7.6～9.23

日本財団助成事業。東山魁夷、酒井亜人、久住三郎、千住博、高橋規矩治郎、溝口七生、前嶋實、マダン・ラルの 8 人の作家による海を題材にした企画展。「豊かな海を育む美しい大地、金谷」という考えのもと、&OCEAN というタイトルで開催。現役で活躍されている名のある作家の力もあり、来館者は 1,835 人であった。また、期間中に KANAYA BASE にて足湯造りをワークショップ形式で開催した。

●第 1 回金谷美術館コンクール 2013.9.28～10.14

初の試みである公募展。日展関係の理事を始めとする名のある先生方が審査員として参加。またその先生方から生徒や弟子に募集をかけてもらうと同時に業界にも広告を打ち、合計 277 点 (1,678,000 円分) 集まった。次点作品は美術館以外での展示 (フィッシュの壁面の使用許可をいただいた) になった。コンクール大賞は賞金+金谷美術館での個展が約束され、26 年度 8 月の展覧会で開催することになっている。来館者合計は 17 日間で 1,170 名であった。

●ART FILE 2013.10.20～2014.1.26

アートクロッシングで新たに収蔵した新作品の公開展。「鋸山遠望」など地元金谷に所縁のある作品もあり、これらは開館以来、理念としてきた「美しいもの大切なものを、みんなで伝え遺し、活かして行く美術館」の成果の一部である。来館者は904人であった。また、期間中にミュージアムコンサートとしてバロックコンサートとクリスマスコンサートを開催した。

●人-風景-人 ～春の収穫祭～ 上野の森美術館コレクションより 2014.2.1～5.6

東京、上野の森美術館の「上野の森美術館大賞展」は過去32年間開催されており、その中で受賞した作品を金谷美術館で展示。上野の森美術館が運営に携わり、同館事務局次長から展示の仕方、チラシの作り方、広報の打ち出し方、作家への配慮などの指導を受けた。

出品作家も作家周辺への広報に協力し、広報活動の幅も広がり始めた。

来館者数は年度末の3月31日までで576人であった。(企画全体では1,087名)